

第 1 分 科 会

タ イ ト ル	住民との協働でつくる地域社会
推 進 委 員	座 長：後 藤 真 彦（山梨県本部） 副座長：津 野 誠（高知県本部） 記 録：平 野 明 紀（岩手県本部）
本部推進委員	野 角 裕美子（組織拡大局長）
担 当 書 記	柳 沢 ちあき（総合企画総務局）

項 目	内 容
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> ● 私たちの働き方を考える ● 公共サービスのあり方を変える
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共サービスの担い手が多様化する中で、いかに市民・住民を巻き込み、地域に必要な公共サービスを守り育てていくかについて、さまざまな「働き手」（公務員・臨時非常勤等職員・公共サービス従事者・指定管理者等）の相互理解・連帯の中で考えます。 ● 多種多様化する住民ニーズへの対応を迫られている中、公共サービスに関する合意形成の手法や私たちの働き方を見直す中で、自治体における住民と職員の新たな関係性を、各地の先進事例を元に探ります。
課題解決に向けた 先進的活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 野洲市の市民生活相談課専門員の立場から考える私たちの仕事 ● 佐賀市立公民館職員によるコミュニティ事業に関する提言活動

項 目	内 容
タイムスケジュール	<午前>
	9 : 30 開 会
	9 : 40 基調講演（質疑含め） 「野洲市が取り組む相談支援 市民のためにツナガルしくみ」 生水 裕美（野洲市市民部市民生活相談課専門員）
	11 : 20 要請レポート発表2本 ・「参加と協働のまちづくりのために — 公民館から見えるまちづくり —」 佐賀県本部／佐賀市立公民館職員労働組合 ・「公契約条例と自治体職員・労働組合の課題」 北海学園大学准教授 川村 雅則
	11 : 50 昼食休憩
	<午後>
	13 : 00 コーディネーターからの提起 平井 一臣（鹿児島大学教授）
	13 : 20 自主レポート発表
	14 : 05 休 憩
	14 : 15 パネルディスカッション（グループ討議、質疑含め）
	15 : 50 ま と め
	16 : 00 閉 会

第 2 分 科 会

タ イ ト ル	地方税財政と公共サービス
推 進 委 員	座 長：吉 村 光 弘（福岡県本部） 副座長：池 田 高 正（大阪府本部） 記 録：佐 藤 孝（福島県本部） 富 田 章 史（岡山県本部）
本部推進委員	伊 藤 和 寿（政治局長）
担 当 書 記	佐 藤 政 則（総合労働局）

項 目	内 容
テ ー マ	財政分析によって自らの自治体の問題点、課題を知り、自治研活動にどうつなげていくかを考えます。また、財政運営のチェック機能の強化のために議員とどのように連携して取り組むかを議論するとともに、福島の避難自治体の財源調達、中間貯蔵施設保管期間中の自治体運営、帰還困難区域を始め区域間の税負担とサービスの格差など避難自治体のあり方について考える機会とします。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	① 福島原発により自治体機能移転を行っている自治体の交付税算定や財政運営の現状と課題 ② 財政難における市民と協働した公共サービスの提供 ③ 財源確保に向けた取り組みと課題
課題解決に向けた 先進的活動	① 大阪府本部が開発した簡単財政分析ソフトを使った学習と課題への取り組み ② 地方議会における財政運営チェックの取り組み

項 目	内 容
タイムスケジュール	<午前> 9 : 30~12 : 00 「避難自治体の財政と公共サービス」
	9 : 30 開会あいさつと分科会運営内容説明 (座長)
	9 : 40 要請レポート 「避難自治体における財政の現状と課題」 福島県本部/福島県議会「民主・県民連合」・県議会議員 宮下 雅志
	10 : 10 自主レポート 「避難自治体『栢葉町』財政の現状」 福島県本部/執行委員 佐藤 孝
	10 : 25 助言者からのコメント 国立大学法人静岡大学・男女共同参画推進室・特任准教授 的場 啓一 (公財) 地方自治総合研究所・研究員 飛田 博史
	10 : 50 休 憩
	11 : 00 意見交換
	12 : 00 昼 食
	<午後①> 13 : 00~14 : 50 「財政的な自立と再建」
	13 : 00 要請レポート 「財政分析ソフトを使った忠岡町財政の分析と課題」 大阪府本部/執行委員 二重 幸生
	13 : 30 助言者からのコメント
	13 : 45 意見交換
	14 : 15 自主レポート 「合併・非合併から見える財政運営 — 合併がもたらした影響を考える —」 新潟県本部/柏崎市職労 竹内 崇史
	14 : 30 意見交換
	14 : 50 休 憩
	<午後②> 15 : 00~16 : 00 「議会のチェック機能と地方財政」
	15 : 00 自主レポート 「議会における事務事業評価」 大分県本部/大分市議会議員 日小田良二 「議会から診た筑後市財政」 福岡県本部/筑後市議会議員 富安 伸志
	15 : 15 助言者からのコメント
	15 : 25 意見交換
	16 : 00 全体まとめ・終了

第 3 分 科 会

タ イ ト ル	人口減少にともなう自治体・地域のあり方
サブタイトル	不安解消の糸口は身近なむらにあり
推 進 委 員	座 長：住 友 光 弘（徳島県本部） 副座長：木 村 和 弘（奈良県本部） 記 録：金 子 利 光（熊本県本部）
本部推進委員	高 柳 英 喜（企画局長）
担 当 書 記	ラム レベッカ（総合政治政策局）

項 目	内 容
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> ● 2005年、史上初めて日本の総人口が減少に転じて以来、人口減少が社会的な課題となってきました。本年5月、増田寛也元総務相を座長とする日本創生会議は、「2040年までに、全国の市区町村の半数が消滅する可能性がある」というレポートを発表し、「消滅可能性都市」896自治体を公表しました。これは自治体関係者など、社会全体に衝撃を与え、7月、全国知事会はこのまま地方の人口が減り続ければ、多くの自治体が消滅しかねないとの強い懸念から「少子化非常事態宣言」を打ち出すに至りました。国は人口減少を克服するために「地方創生本部」をおくとしていますが、その先行きは定かではありません。 ● このようなマクロの状況を踏まえながら、地方はもちろん、都市部でも危機的状況にあることが指摘され始めた過疎化の問題や、少子高齢化の問題とあわせながら、改めて地域・自治体の維持・存続に向けて、どのような取り組みが必要なのか（できるのか）、について、助言者とともに、以下のような点を切り口に考えます。 <ol style="list-style-type: none"> ① 社会・地域にとって、人口減少の何が問題なのか（問題ではないのか）を検証します。 ② 高齢化や出生率の低下によるもの、転居・転出によるもの等、人口減少の要因を分析します。 ③ 人口減少（増加）について事例を通して検証します。 <p><レポートのあり方></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地方における課題・事例と、都市部における課題・事例に関する報告 ● 生活圏としての小規模コミュニティ（＝むら）における、地域の再構築に向けた事例に関する報告

項 目	内 容
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	①そもそも人口減少問題とは何か、②人口減少問題は何が問題なのか（なぜ将来不安につながるのか、私たちが住み、生活し、働いている地域の現状と将来は？）を考えた上で、それぞれの地域・現場目線で身近なむらを元気に、明るく、暮らしやすくする取り組みを進めます。
課題解決に向けた 先進的活動	徳島県・旧東祖谷山村における一人暮らしのお年寄りの安否を確認する目的で、朝起きた時に旗を軒先や玄関に掲げる取り組み。
タイムスケジュール	<p>9：30 開 会 副座長による分科会開催趣旨説明</p> <p>9：40 助言者山下先生による人口減少問題等に関する 基調提起および質疑 山下 祐介（首都大学東京・准教授）</p> <p>10：30 要請レポート発表 ① 「高齢化率100% 11世帯19人の地域に4万人（事例報告） — 『弁財天』集落で石楠花一万本の取り組み —」 奈良県本部／宇陀市職員労働組合</p> <p>10：50 地方・中山間地域・過疎に関するテーマでの報告（3本） — 自治研レポート集より —</p> <p>11：50 助言者からの講評およびフロア討議</p> <p>12：20 昼食休憩</p> <p>13：20 開 始 要請レポート発表 ② 「多摩市の少子・高齢化の現状と課題」 東京都本部／自治労多摩市職員組合</p> <p>13：40 大都市・都市部に関するテーマでの報告（1本） — 自治研レポート集より —</p> <p>14：00 助言者からの講評およびフロア討議</p> <p>14：20 休 憩</p> <p>14：35 再 開 「人口減少・少子高齢化・過疎化」「地域づくり」 等に関する全体でのフリーディスカッション</p> <p>15：50 座長によるまとめ</p> <p>16：00 閉 会</p>

第 4 分 科 会

タ イ ト ル	地域から考える再生可能エネルギーによるまちづくり
推 進 委 員	座 長：釜 崎 正 義（長崎県本部） 副座長：岩 崎 研 司（栃木県本部） 司 会：猪鹿月 弘 行（鹿児島県本部） 記 録：榊 本 康 仁（山口県本部）
本部推進委員	山 本 善 久（公営企業局長）
担 当 書 記	高 島 雅 子（総合政治政策） 高 松 彩 夏（総合政治政策）

項 目	内 容
テ ー マ	各自治体の自然エネルギーへの取り組みは、スタートしたばかりと言えます。本分科会では、地域の特色を生かした再生可能エネルギーの推進・省エネ対策・災害時電源など地域全体のエネルギー活用について、将来を見据え主体的にかかわっていく方向性を発信します。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	人口減少を見据え、地域経済の活性化に対応する自然エネルギーの可能性を探ります。 地域の自然環境と住民の暮らしを基本に、各自治体の再生可能エネルギーや省エネ政策の実践をめざします。
課題解決に向けた 先進的活動	次世代エネルギーを活用したまちづくり <例> <ul style="list-style-type: none"> ● 「太陽光王国」佐賀県の取り組み ● 藻類バイオマスプロジェクト ● ノリ養殖場と下水処理場の省エネ対策 ● 地熱発電など効率的な発電技術の開発 ● 地方自治体による再生可能エネルギー普及の取り組み等

項 目	内 容
タイムスケジュール	<午前>
	9:30 開 会 分科会基調提起
	9:40 講演 1 「再生可能エネルギーを活用するまちづくり」 増原 直樹（総合地球環境学研究所 プロジェクト研究員）
	10:30 休 憩
	10:40 講演 2 「次世代エネルギーを活用したまちづくりについて」 久保 信治（薩摩川内市 新エネルギー対策課長）
	11:30 レポート発表
	① 「芸北『せどやま』再生事業 — 美しい里の景観づくりと地域活性化 —」 広島県本部／北広島町職員労働組合 頼政 孝治 (代理の方が出席)
	② 「積雪寒冷地における再生可能エネルギーの地産地消を めざした組合員および市民を対象とした 新エネルギー学習会の取り組み」 青森県本部／青森県職員労働組合 三上 一
	11:50 質疑応答
	12:00 昼 食
	12:45 出発予定
	<午後>
	13:00 フィールドワーク（移動時間含む）
	【見学先】吉野ヶ里メガソーラー発電所 てるてるの森 佐賀市下水浄化センター（消化ガス発電、汚泥たい肥化施設等）
	【見学先施設間バス移動時間放映DVD】
	① 超巨大イカ!? 呼子に現る ② 浮体式潮流・風力ハイブリッド発電 [skwid] 紹介映像
	※ お手洗いはフィールドワーク先で。
16:00 佐賀駅解散予定	

第 5 分 科 会

タ イ ト ル	発信しよう！ 地域の農（林水産）業 つながろう！ 生産者（地）と消費者（地）
推 進 委 員	座 長：中 條 貴 仁（東京都本部） 記 録：又 市 秀 治（富山県本部）
本部推進委員	小 山 芳 彦（連帯活動局長）
担 当 書 記	羽 鳥 竜（総合組織局）

項 目	内 容
テ ー マ	農（林水産）業は地域と人の暮らしを持続的に支え、国土保全をはかるための社会的共通資本です。ですが近年、農（林水産）業を取り巻く状況は、担い手不足などにより厳しさを増しています。しかし地域には、さまざまな資源があり、地域特性を生かした取り組みを進めている自治体もあります。そのため、自治体やNPO、企業、地域住民が連携して、地域資源と地域特性を生かし農（林水産）業の魅力を発信するとともに、消費者への理解を深め、地域の農（林水産）業を活性化していくための方策を模索します。また、農（林水産）業の活性化をめざし、自治体がどのように関わっていく必要があるかを議論します。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	地域住民やNPO、企業、行政などがどのように連携し、わがまちの農（林水産）業を活性化していくのか
課題解決に向けた 先進的活動	佐賀“食と農”絆づくりプロジェクト活動

項 目	内 容
タイムスケジュール	9 : 30 開 会
	9 : 40 講 演 「農（林水産業）の活性化と地域のつながり（仮）」 五十嵐 勉（佐賀大学教授・絆づくりPT委員）
	11 : 10 要請レポート発表① 「食育・地産地消～その後の取り組みについて～」 広島県本部／自治労福山市職員労働組合連合会・ 「食の安心・安全、地産地消プロジェクト」・ 給食士部会・副部長 宮澤 美子
	11 : 30 要請レポート発表② 「都市と農（食・みどり・水） — 農ある暮らしを考える —」 東京都本部／公益社団法人東京自治研究センター・研究員 藤岡 一昭
	11 : 50 昼食休憩
	12 : 50 パネルディスカッション 「地域活性化にむけた自治体・地域等の連携の仕方とは（仮）」 コーディネーター 宇根 豊（自治体農ネットワーク世話人） パネリスト① 五十嵐 勉 (佐賀大学教授・絆づくりPT委員) ② 宮澤 美子（広島県本部／自治労福山市職員 労働組合連合会・現業評議会） ③ 藤岡 一昭（東京自治研究センター・研究員）
	14 : 20 全体討論
	15 : 00 発 表
	15 : 45 ま と め
	16 : 00 閉 会

第 6 分 科 会

タ イ ト ル	セーフティネットとしての公共交通
推 進 委 員	座 長：小 林 剛（島根県本部） 副座長：阿 部 嘉 弘（神奈川県本部） 記 録：土 屋 雅 義（岐阜県本部） 武 嶋 直 登（和歌山県本部）
本 部 推 進 委 員	林 崎 勝 之（交通政策局長）
担 当 書 記	遠 藤 恭 彦（財政局）

項 目	内 容
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> ● まちづくり施策と公共交通がいかに連携できるか。 ● 交通弱者や過疎地域・限界集落の住民の通勤、通学、通院等の手段を確保し、安全に移動できる社会の構築を考える。 ● 大災害時の公共交通の果たす役割と迅速な復旧に向けた交通ネットワークの形成について。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・超少子高齢化社会の中にあって、公共交通は地域住民のために何ができるか。 ● 地域公共交通をいかに維持し守っていくか。
課題解決に向けた 先進的活動	熊本市「交通政策条例の策定に関する取り組み」 朝倉市「朝倉市における交通空白地域の解消に向けた取り組み」

項 目	内 容
タイムスケジュール	9 : 30 開 会
	9 : 40 講 演「地域における移動手段をどう確保していくのか？ ～地域公共交通の現状と課題～」 嶋田 暁文（九州大学・大学院法学研究院・准教授）
	11 : 00 質疑応答
	11 : 10 要請レポート報告 「熊本市における交通基本条例施行に至る経緯と 今後の課題について」 熊本県本部／熊本市交通局労働組合・執行委員長 古賀 弘（都市交通評議会） 「朝倉市地域公共交通体系構築と課題」 福岡県本部／朝倉市職員労働組合・ふるさと課・ 交通対策係 舟木 信広
	12 : 00 昼 食
	13 : 00 自主レポート報告 「自治体の施策と連携した公営交通の取り組み — 乗り継がれて78年の市営バス —」 佐賀県本部／佐賀交通労働組合・執行委員長 真島 武司
	13 : 20 パネルディスカッション 「地域公共交通の『再構築』～現場からの報告と提言～」 コーディネーター：嶋田 暁文 （九州大学・大学院法学研究院・准教授） パネリスト：鈴木 文彦（交通ジャーナリスト） 室 浩一（都市交評・ 中国九州ブロック連絡会・事務局長） 古賀 弘（熊本市交通局労働組合・ 執行委員長）
	15 : 30 質疑応答、まとめ
	16 : 00 閉 会

第 7 分 科 会

タ イ ト ル	ワークショップ「自治研」 楽しく学ぶ自治研活動
推 進 委 員	座 長：太 田 克 典（山形県本部） 副座長：米 山 憲 一（長野県本部） 記 録：篠 原 輝 雄（京都府本部）
本部推進委員	岸 真紀子（法対労安局長）
担 当 書 記	柳 沢 佳 孝（総合都市交通局）

項 目	内 容
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自治研ってそもそも何?」、「何をどうしたらいいのかわからない」という声に応えて、自治研に取り組む際の悩みや疑問、どうスタートを切るか、組合員への働きかけはどうすればいいかなどについて、各地の事例を学びます。実際に携わっている人の声から、その楽しさや、やりがい、関わった住民の皆さんの喜びの声などを共有しましょう。 ● 「これから自治研を始めたい人」、「自治研を推進する担当になった方」集合！ 楽しい、やりがいのある、そして住民から喜ばれる自治研の始め方について「自治研プチ体験」で学びます。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	自治研活動入門編「自治研について楽しく学ぶ」
課題解決に向けた 先進的活動	楽しみながら実践する自治研の取り組み

項 目	内 容
タイムスケジュール	9 : 30 開 会
	9 : 35 DVD上映「自治研 きのう・今日・あした」 座長あいさつ
	10 : 15 事例紹介 「楽しみながら実践する自治研の取り組み」 伊藤 藤夫（福井県地方自治研究センター副理事長）
	10 : 30 要請レポート報告 「自治研って何？ 楽しむ自治研、実施中！」 石川県本部／七尾市職員労働組合・自治研対策部 「馬産地日高から『ホッカイドウ競馬』を考える — 観る・知る・参加する —」 北海道本部／日高地方本部
	11 : 00 自主レポート報告
	11 : 30 助言者からのコメント 質疑・意見交換 菅原 敏夫（公益財団法人地方自治総合研究所・研究員） 伊藤 藤夫（福井県地方自治研究センター副理事長）
	12 : 00 昼食交流（自己紹介・職場紹介）
	13 : 00 ワークショップ（自治研プチ体験） 「仕事・地域の課題を自治研で解決しよう！」
	15 : 20 グループ発表
	15 : 40 助言者からのコメント ま と め
	16 : 00 閉 会

第 8 分 科 会

タ イ ト ル	男女がともにつくる、私たちのまち
サブタイトル	子育て、働き方、地域との関わり
推 進 委 員	座 長：峯 潔（熊本県本部） 副座長：山 内 一 滋（秋田県本部） 記 録：松 田 直 樹（宮崎県本部）
本部推進委員	榎 本 朋 子（社会保障局長） 松 澤 佳 子（女性部長）
担 当 書 記	三 浦 浩 明（総合組織局）

項 目	内 容
テ ー マ	<p>☆これまでそれぞれ独立した分科会であった「子育て支援」と「男女平等」の2つの分科会を1つに融合したのが佐賀自治研の第8分科会です。</p> <p>なぜ、地域・職場の男女平等は進まないのか、男性の育休取得が進まないのか、地域社会に求められていることを下記2つの視点から考えていきます。</p> <p>① 男女平等とワークライフバランス（WLB）のための法制度の整備は進んでいても、社会での男女平等が進まないのはなぜか。</p> <p>② 子育てを社会全体で進めていくことが必要。そのために自治体は何ができるのか。</p>
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	上記①、②を解決するために、自治体政策として何ができるのか。データおよび具体的事例を参考に会場全体で意見交換をしながら考えていく。
課題解決に向けた 先進的活動	<p>① 職場の男女平等の状況を可視化するために、人事データを解析している単組の事例（大館市・熊本市）</p> <p>② 職員が育児・介護で離職しなくてすむような独自の取り組みをしている職場の事例</p>

項 目	内 容
タイムスケジュール	9：30 基調「子ども・子育て支援法の理念と私たちが求める社会 ～男女平等とWLBの観点から～」 普光院亜紀（保育園を考える親の会代表・ 元子ども子育て新システム幼保一体化 ワーキングチーム委員）
	10：15 パネルディスカッション 「子ども・子育て支援法でWLBはどのような？ 何が変わる？」 コーディネーター：普光院亜紀（保育園を考える親の会 代表・元子ども子育て新システム 幼保一体化ワーキングチーム委員） パネリスト：朝川 知昭 （厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長） 原田智江子 （自治労社会福祉評議会保育部会部会長） 後藤 紀行 （西東京市職員労働組合・執行委員長）
	12：00 昼 食
	13：00 レポートおよび報告 ①<<レポート>>「三重県庁における労使協働の取り組み 『ワーク・ライフ・マネジメント』の開始にあたって」 三重県本部／三重県職員労働組合 副委員長 浜村多栄子 ②<<報告>>「松本市子どもの権利に関する条例制定と取り組み」 長野県本部／松本市職員労働組合 特別執行委員 丸山 晴彦 ③<<報告>>「育児休業に対する意識調査～大館市の事例から」 ④<<報告>>「データでみる男女平等～熊本市の事例から」
	14：00 意見交換 ※ 自主レポートがあれば発表 ☆「地域の活動の中で生まれた絆と生命を守る力」
	15：45 全体まとめ
	16：00 閉 会

第 9 分 科 会

タイトル	平和と共生のために、自治体は……
推進委員	座長：山下 義 仁（青森県本部） 副座長：工藤 博 司（滋賀県本部） 青木 清（愛知県本部） 竹田 恵（広島県本部） 記録：青木 清（愛知県本部）
本部推進委員	中村 隼 人（青年部長）
担当書記	川上 奈 月（総合公共民間局）

項 目	内 容
テ ー マ	① 特定秘密保護法施行、私たちの生活への影響を考える ② 共生できるまちづくり ― 多文化共生社会構築のヒント ―
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	① 特定秘密保護法の施行によって自治体・地域生活はどう変わるのかを学び、平和を守る視点から自治体・地域で果たすべき役割を模索する。 ② 外国人労働者の増加や、ヘイトスピーチなどの人権侵害が顕在化するなか、現場の挑戦を通して、共生社会実現のために自治体・地域ができることを提起する。
課題解決に向けた 先進的活動	外国人に対する支援を中心に、共生社会実現のための取り組みを行っている 単組・団体等

項 目	内 容
タイムスケジュール	9 : 30 副座長あいさつ、オリエンテーション
	9 : 40 講 演 「平和と共生をゆがめる政治・社会への対抗」 舟越 耿一（長崎大学名誉教授）
	11 : 15 質疑応答
	11 : 30 昼 食
	12 : 30 要請レポート① 「グローバル化するケア労働と外国人ケア労働者」 九州大学比較社会文化研究院・准教授 小川 玲子
	13 : 50 休 憩
	14 : 00 要請レポート② 「共生できるまちづくり ― 多文化共生社会構築のヒント ―」 コリアNGOセンター・代表理事 郭 辰雄
	15 : 20 自主レポート 「手話基本条例の制定 ― これからめざすもの ―」 北海道本部／自治労石狩市職員労働組合 鈴木 昌裕
	15 : 40 まとめ、座長あいさつ
	15 : 50 閉 会

第 10 分 科 会

タ イ ト ル	貧困・格差社会の是正とセーフティネットの再構築
推 進 委 員	座 長：三 井 清 光（群馬県本部） 副座長：大 藪 進（石川県本部） 記 録：河 合 克 樹（静岡県本部）
本部推進委員	西 村 正 樹（社会福祉局長）
担 当 書 記	会 田 麻里子（総合組織局） 溝 口 慎一郎（総合政治政策局）

項 目	内 容
テ ー マ	いま、日本では、社会のあらゆる局面で、貧困問題が顕在化している。貧困・格差社会においては、生活保護に至る手前で困窮し、孤立する人々をどのように把握・支援するかが課題となる。2015年4月から「生活困窮者自立支援法」が施行され、福祉事務所を設置するすべての自治体で自立相談支援事業が実施される。貧困の連鎖を防ぐために、自治体がどのように実効性を確保していくかを考える。また、生活・就労支援を行うにあたり、福祉事務所・ハローワーク・NPO・社協等と連携して、地域社会におけるセーフティネットをどのように再構築していくか、地域社会と自治体の課題・役割に焦点をあてて議論を行う。また、自治体職員の人材育成のあり方についても検討する。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活保護に至る手前で困窮し、孤立する人々をどのように把握するか ● 生活・就労支援を行うにあたり、地域社会におけるセーフティネットをどのように再構築していくか ● 貧困の連鎖を防ぐために、自治体がどのような支援策を講じられるか
課題解決に向けた 先進的活動	佐賀市（生活困窮者自立促進支援モデル事業実施自治体） 宇佐市、福井市、福岡市、伊万里市、八王子自治研究センター

項 目	内 容
タイムスケジュール	<p>9：30 開 会</p> <p>問題提起：「生活困窮者自立支援をどう実現するのか」 宮本 太郎（中央大学法学部教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現代日本における貧困・格差社会の現状 ● 生活困窮者自立支援法の本格実施にあたって ● 社会的包摂と連帯社会の構築 <p>要請レポート、自主レポート、参加者からの報告・質疑、意見交換、 助言者からのコメント</p> <p>佐賀市における生活困窮者支援の取り組みと課題について 佐賀県本部／佐賀市職員労働組合 青柳 勝 市民感覚を大切にしながら ― 生活保護の現場から ― 福岡県本部／福岡市職員労働組合 井上 健</p> <p>若者の貧困から見える課題と自立支援 東京都本部／一般社団法人八王子自治研究センター・事務局長 佐藤千恵子</p> <p>問題提起：「貧困・格差社会の是正とセーフティネットの再構築」 駒村 康平（慶応大学経済学部教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 貧困の連鎖の防止 ● 生活・就労支援と地域社会におけるセーフティネットの再構築 ● 地域社会と自治体・自治体職員の役割・連携 (ハローワーク、福祉事務所、社協、NPO法人) ● 生活保護制度改革 <p>要請レポート、自主レポート、参加者からの報告・質疑、意見交換、 助言者からのコメント</p> <p>16：00 閉 会</p>

第 11 分 科 会

タ イ ト ル	「生活者の多様性に根差した災害への備え」をめざして
サブタイトル	男女共同参画、要援護者視点などを反映した災害事前対応の確立
推 進 委 員	座 長：西 尾 祥 之（愛媛県本部） 副座長：栗 山 隆（埼玉県本部） 記 録：大和久 正（千葉県本部） 佐 藤 秀 人（北海道本部・札幌市職） 織 屋 義 已（大阪府本部・大阪市職）
本部推進委員	牧 野 梅三郎（現業局長）
担 当 書 記	竹 谷 望（総合組織局）

項 目	内 容
テ ー マ	来る災害に対し明日を守るために、私たちは事前に何をしなければならないのか。見落とされがちな生活者の多様な視点を盛り込んだ「備え」の確立について、行政・住民・組合という3つの視点から検討する。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	① 単なる備えではなく、「被災者の多様性」を考慮した備え ② 多様な生活者の擁護的側面とそのエンパワメント
課題解決に向けた 先進的活動	高知市女性の視点による南海地震対策検討委員会（高知県高知市） なでしこ防災ネット 女性の視点からの防災対策（神奈川県秦野市） とよなか女性防災プロジェクト（大阪府豊中市）

項 目	内 容
タイムスケジュール	9 : 30 開会 (座長あいさつ・分科会説明)
	9 : 40 講演「生活者の多様性に根差した災害への備え」 北川 慶子 (佐賀大学名誉教授・聖徳大学教授)
	11 : 10 休 憩
	11 : 20 レポート発表 「高齢化社会を踏まえた地域対策 — 災害時における地域と行政の協働体制について —」 佐賀県本部／伊万里市・特定非営利活動法人 NPO栄町地域づくり会
	12 : 00 昼 食
	13 : 00 パネルディスカッション (北川先生のコーディネートのもと、 行政・住民・組合それぞれの立場からのパネリストが登壇) コーディネーター 北川 慶子 (佐賀大学名誉教授・聖徳大学教授) パネリスト (行政) 佐賀県 防災関係課 (住民) 伊万里市 特定非営利活動法人 NPO栄町地域づくり会 (組合) 自治労組合員
	質 疑
	15 : 30 分科会まとめ
	16 : 00 閉 会

第 12 分 科 会

タ イ ト ル	地域包括ケアシステムの構築
サブタイトル	現場の経験を活かす
推 進 委 員	座 長：隅 田 龍（兵庫県本部） 副座長：鈴木 秀 教（茨城県本部） 野 村 まゆみ（東京都本部：衛生医療評議会）
本部推進委員	伊 藤 邦 彦（衛生医療局長）
担 当 書 記	杉 崎 穰 滋（総合企画総務局） 大 網 裕 美（総合政治政策局）

項 目	内 容
テ ー マ	地域包括ケアシステムは地域特性や社会資源のあり方に大きく依存するため、全国一律的な方法では構築できない。厚生労働省は積極的に先進事例を紹介しているが、これらの事例を地域に適用しようとしても、簡単ではない。分科会では地域包括ケアシステムを生活保障システムとして位置づけることを提案するとともに、これまでの現場での取り組みの経験を踏まえ、よりよい地域包括ケアシステムの構築に向けた諸条件を考える。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	この間「地域におけるコーディネーター」となり地域コミュニティのつなぎ役をめざしてきた自治研活動にとって「安心して暮らせる地域社会づくり」をめざす地域包括ケアシステムの構築は中心的課題のひとつである。
課題解決に向けた 先進的活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 厚生労働省の事例紹介の自治体（先進10事例） 千葉県柏市、新潟県長岡市、東京都世田谷区、鳥取県南部町、三重県四日市市、大分県竹田市、熊本県上天草市、埼玉県川越市、鹿児島県大和村、鳥取県 ● 自治研作業委員会の設置、自治研集会へ中間報告

項 目	内 容
タイムスケジュール	<午前>地域包括事例レポート（ポスターセッション）
	9：30 開会・オリエンテーション
	9：40 ポスターセッション * 6レポートを6ブースで報告、参加者を6つのグループに分け、時間を区切って各ブースを回っていただき、発表者との双方向の意見交換を行う
	<ポスターセッション（題名はすべて仮題）>
	○「地域ケア会議と自立支援型ケアマネジメント」 鳥取県北栄町地域包括支援センター 池田 伸夫
	○「高知市の福祉部門における出先機関の再構築試案」 高知市職書記長 池添 健太
	○「行政社会福祉士が取り組む『法福連携』」 桑名市高齢福祉課中央地域包括支援センター 西村 健二
	○「公立病院が担う地域医療の歩み」 公立八鹿病院職員組合 米田 正樹
	○「地域包括支援センターの取り組み」 浜頓別町国保病院介護相談室指定居宅介護支援事業所 塚越 寛
	○「介護保険外事業開発による介護予防と生活支援の展開」 大分県竹田市職 甲斐香代子
	11：40 助言者コメント 井上 信宏（信州大学教授）
	12：10 昼食休憩
	<午後>基調講演・パネルディスカッション
	13：00 基調講演「地域包括ケアの歴史的な位置づけ」（仮） 檀本 真津（愛媛大学総合診療サポートセンター長）
	14：00 パネルディスカッション 「多職種の現場知をどう活かすか」（仮） コーディネーター：井上 信宏（信州大学教授） パネリスト：檀本 真津（医師・病院の立場から） 杉浦 敦子（保健師・看護師の立場から） 小林 一司（医療連携室の立場から） 安東いつ子（訪問看護の立場から）
16：00 まとめと閉会	

第 13 分 科 会

タ イ ト ル	自治体からはじまる地域教育へのチャレンジ
サブタイトル	図書館・学校現場から見えてくるもの
推 進 委 員	座 長：山 本 修 哉（富山県本部） 副座長：宮 里 勝（沖縄県本部） 記 録：澁 川 学（香川県本部） 深 田 明 美（三重県本部） 司 会：村 上 哲 也（大阪市職）
本部推進委員	鬼 木 誠（組織対策局長）
担 当 書 記	三 浦 一 力（総合組織局）

項 目	内 容
テ ー マ	<p>日本において、少子高齢化や人口の減少などの要因により、地域社会のあり方が変化し、地域における人間関係の希薄化などの問題が生じています。また一方で東日本大震災を契機に、地域における人と人とのつながりやコミュニティなどの重要性があらためて見直されています。</p> <p>そうした中で、自治体が地域教育を通して人づくり・地域づくりを担うことは重要な要素の一つです。</p> <p>たとえば、図書館や公民館などの生涯学習施設では、市民の学びに対する支援だけにとどまらず、学びを通じて、人と情報がつながりあうことができます。また、学校現場においては地域と学校とが密接に連携しながら、子どもの学びを支える環境づくりが進められており、教育委員会事務局や学校調理、学校環境整備などの職員がさまざまな現場において地域教育に携わっています。</p> <p>本分科会では地域教育における具体的なチャレンジの事例報告を中心に、市民自らが地域課題の解決に取り組む住民自治の形成に向けた“学び”のあり方について考えます。</p>

項 目	内 容
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域を支える図書館や公民館など公共施設をどのように地域教育に活用していくか ● 学校給食や学校環境整備を地域教育にどう生かすか ● 地域で考える今後の地域教育の方向性 など
課題解決に向けた 先進的活動	<ol style="list-style-type: none"> ① 伊万里市における図書館の取り組み ② 京都市の学校給食における食文化・食育の取り組み ③ 川崎市の学校環境整備における「伝十郎桃復活」の取り組み
タイムスケジュール	<p>9：30 開会・趣旨説明</p> <p>9：40 講演「地域に求められる図書館」 猪谷 千香（文筆家・ハフィントンポスト日本版記者） 質疑・応答</p> <p>10：50 要請レポート発表（質疑・応答含む） ・「学校用務業務 ― 川崎発祥『伝十郎桃』復活の 取り組み ―」 神奈川県本部／川崎市職員労働組合・教育支部 伊藤 昇 ・「給食における食物アレルギー全市統一对応に向けて」 京都府本部／京都市学校給食職員労働組合 橋本 正樹</p> <p>11：30 自主レポート報告 ・伊万里市職員労働組合・伊万里市民図書館ほか</p> <p>12：00 昼 食</p> <p>13：00 自主レポート報告（質疑・応答含む） ・石垣市職員労働組合ほか</p> <p>13：30 パネルディスカッション コーディネーター：上林 陽治 （（公財）地方自治総合研究所研究員） パネリスト：猪谷 千香 （文筆家・ハフィントンポスト日本版記者） 伊万里市民図書館 伊藤 昇（川崎市職員労働組合・教育支部） 橋本 正樹（京都市学校給食職員労働組合）</p> <p>15：15 休 憩</p> <p>15：30 会場との意見交換</p> <p>15：45 まとめ・講評</p> <p>16：00 閉 会</p>